

2017年6月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、北大西洋北部からユーラシア大陸北部、日本付近にかけて波列パターンが卓越し、ヨーロッパ南部、中央シベリアでは正偏差、ロシア西部、日本付近では負偏差となった。米国西部では正偏差、カナダ東部では負偏差となった。200 hPa 風速をみると、寒帯前線ジェット気流はロシア西部で南へ、中央シベリアでは北に蛇行した。亜熱帯ジェット気流は、南アジア～日本付近では平年の位置の南寄り流れ、日本付近～東海上では平年より強かった。海面気圧は、北日本～日本の東海上では負偏差となった。太平洋高気圧の日本付近への張り出しは弱かった。850 hPa 気温は、ヨーロッパ南部、西・中央シベリア、米国西部で高温偏差、ロシア西部、中国東部～ベーリング海で低温偏差となった。帯状平均した東西風をみると、北緯30～60度帯で西風偏差となった。南半球の極夜ジェットは平年より強かった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、ニューギニア島周辺、インド中部、アフリカで活発、南シナ海～フィリピンの東海上、インド洋中・東部と太平洋西・中部の赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半にインドネシア付近～アフリカを東進した。対流圏上層では、本州南海上で高気圧性循環偏差、本州付近で低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、北インド洋の偏西風は平年より弱く、東南アジアのモンスーントラフも平年より浅かつ

た。北太平洋の亜熱帯高気圧はフィリピン付近への張り出しが平年より強かった。海面気圧は、インド洋東部～太平洋の熱帯域で広く正偏差となった。南方振動指数は-0.6（速報値）だった。

世界の天候

2017年6月の世界の月平均気温偏差は+0.36°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。6月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.70°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

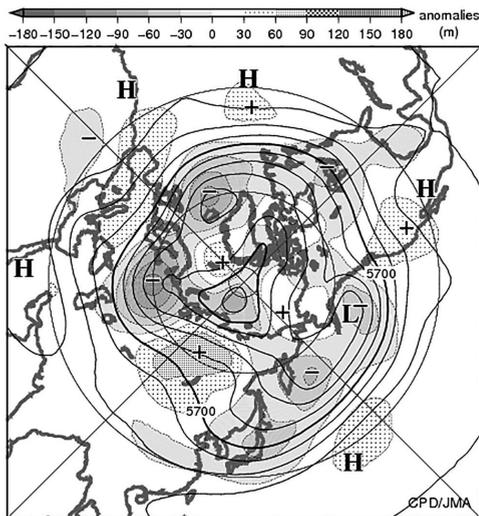
- 中央シベリア南部～モンゴル西部で異常高温となり、朝鮮半島及びその周辺、モンゴル東部及びその周辺で異常少雨となった。
- インド西部～サウジアラビア西部で異常高温となった。
- ヨーロッパ中部～カナリア諸島で異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

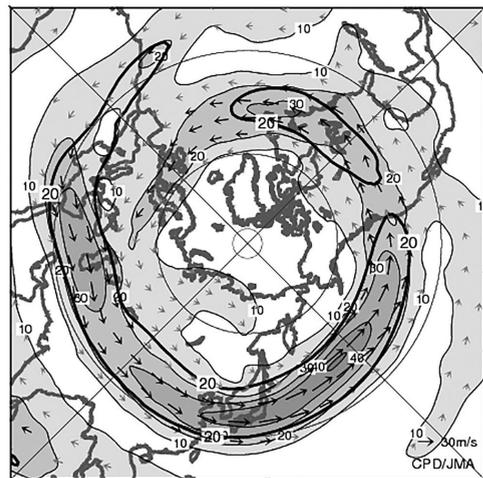
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



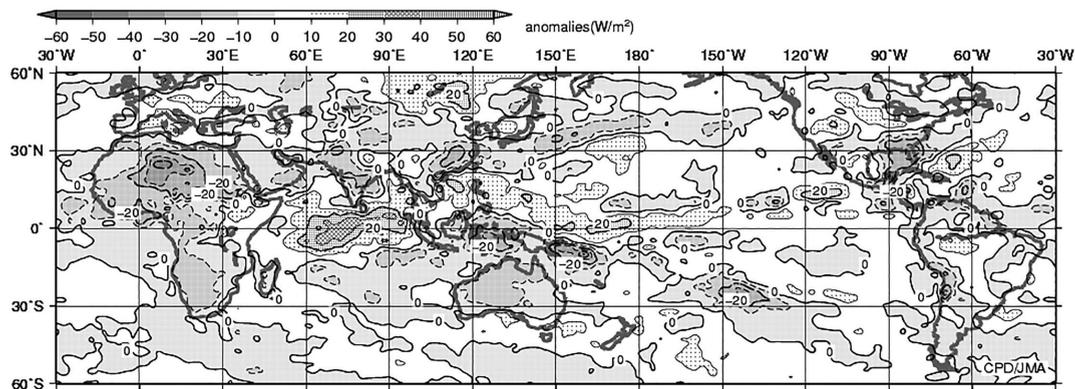
2017年6月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



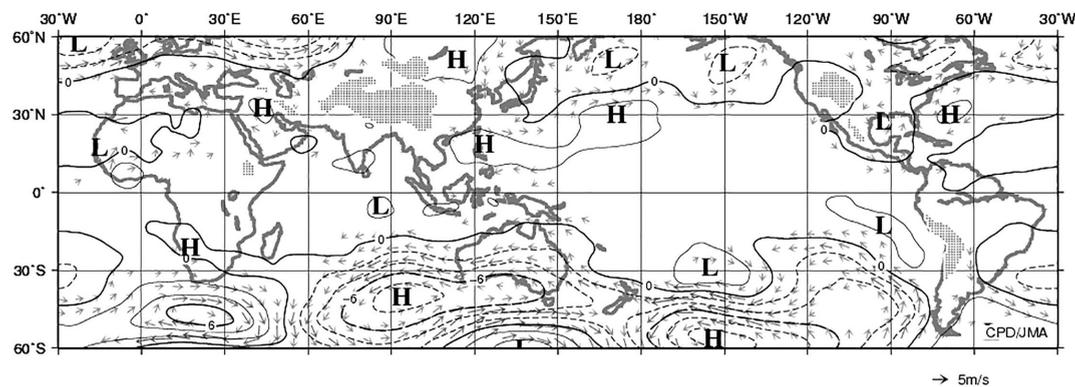
2017年6月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



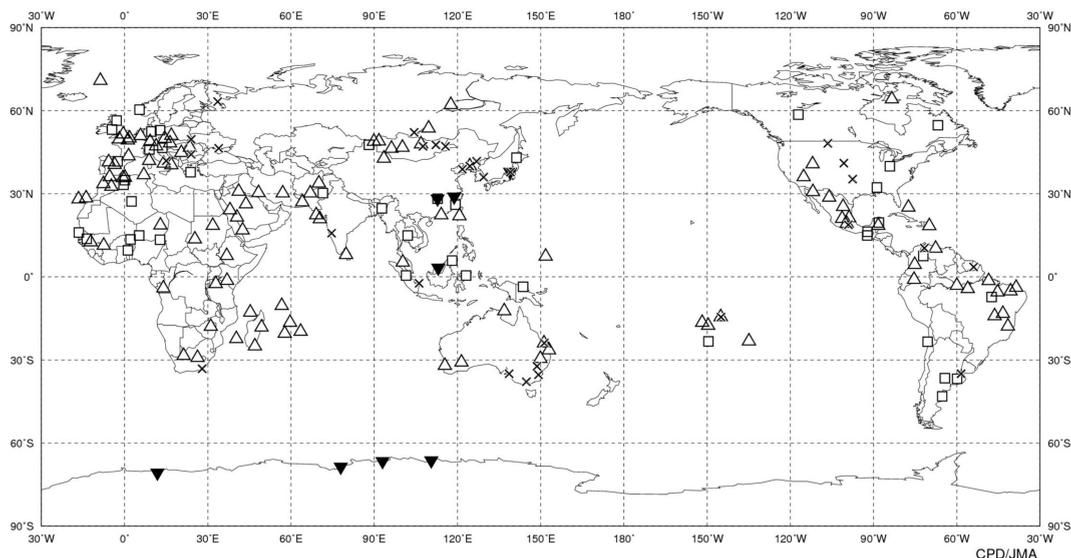
2017年6月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年6月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2017年6月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。